


# 文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol.  
20

April 2009  
from NARA



ナヴォイ・オペラ・バレエ劇場  
(ウズベキスタン・タシケント市)

文化遺産ワークショップ●ウズベキスタン 1-2

ACCU奈良・トピック 2

国際会議・国際シンポジウム 3-4

研修レポート●集団研修・個人研修・文化遺産保護青年指導者研修・交流プログラム 5-6

WALKING MAP 桜だより・佐保川

(財) ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

# ウズベキスタンのタシケントで 文化遺産ワークショップを 開催しました！

アジア太平洋地域の現地に専門家講師を派遣して研修を行う「文化遺産ワークショップ」。昨年度(2007年)からスタートしましたが、今年度(2008年)は、古くからシルクロードの要所、中央アジア最大の都市であるウズベキスタンの首都タシケントで開催しました。

ウズベキスタンには、世界遺産のサマルカンドやブハラをはじめ、歴史的な文化遺産が数多くあります。いくつもの遺産はこれまで、国外からの協力も得ながら、調査や保存修復が行われてきました。なかでも遺跡の発掘調査では、多数の土器など種類豊富な遺物が出土しており、これらの記録作成と保存処理が課題になっています。

今回のワークショップは、2008年10月20日から25日までの6日間、首都のタシケント市で、「考古遺物の記録方法」をテーマに開催しました。会場は、平山郁夫画伯の国際協力で創設

された文化遺産の調査・研究・研修・展示施設「国際文化キャラバンサライ」です。ウズベキスタン国内の各地で文化遺産保護に活躍中の若手研究者14名が参加しました。

開会式では、西村康ACCUCU奈良事務所長とアンナ・パオリーUNESCOタシケント事務所長による主催者挨拶の後、このワークショップ開催に協力いただいたクズイェフ芸術アカデミー総裁から歓迎の言葉をいただきました。

研修プログラムは、考古遺物の写真撮影方法の講義から始まりました。



研修会場(国際文化キャラバンサライ)

講師は、奈良文化財研究所の杉本和樹さんです。杉本さんは、遺物を写真で記録する必要性と有効性をわかりやすく解説し、撮影を実演していきます。研修生も次々に、大型カメラを手にし、実習に取り組みました。



写真撮影実習



全体記念写真

研修の後半では、考古遺物の実測方法を学びました。講師は、平城遷都1300年記念事業協会の立石堅志



土器実測実習



拓本実習

さん、奈良県立橿原考古学研究所の近江俊秀さん、駒澤大学の古庄浩明さんの3名です。遺物の実測の必要性や理論、実測用具の使用方法など、基礎講義を受講してから、シルクロード沿線の古代遺跡出土品である土器を実際に使って、実測実習を行いました。また、土器細部やコインの紋様を拓本に採る方法もあわせて習得しました。最終日には、アンナ・パオリニUNESCOタシケント事務所長が、総括講義を行ってワークショップの最後を締めくくり、研修生各自に修了証書を手渡しました。

6日間という短期間の研修でしたが、実践的な内容が好評で、今後もこのような機会を提供して欲しいとの希望が多く寄せられました。今回の研修の開催については、地元新聞やテレビのニュース番組に取り上げられ、ワークショップへの関心の高さを感じました。

実測は、対象の大きさと輪郭を、正確に伝えないといけないため、研修で学んだ土器や骨製品、金属製品の実測の日本方式は、とても重要で効果的でした。研修で得た経験を、これから行う土器の実測や写真撮影の際に取り入れたいと思います。

(ウズベキスタン国立歴史博物館所属・オタベック・アリプジャンフさん)

## ACCU奈良・トピック

# ベトナム文化スポーツ観光省大臣表彰を受けました

ベトナムの文化遺産の保護事業に貢献したとして、ACCUを含め文化庁など6団体に同賞が贈られました。2009年2月9日、表彰式がベトナム文化スポーツ観光省で行われ、ルー・チャン・チュー副大臣から、ACCUを代表して西村康ACCU奈良事務所長に賞状が授与されました。ACCU奈良事務所では、ベトナム北部を代表する農村集落であるドウオンラム村(ハノイ市)の保護協力事業の一環で、現地担当者を日本に招き、町並み・集落の保護の研修を実施するなど、これまでに同国から文化遺産保護に携わる18名の研修生を受け入れてきました。今後も引き続きベトナムの文化遺産保護に貢献できるように、研修事業などを継続していく予定です。



国際会議

文化遺産の危機管理Ⅲ  
— 歴史都市の防災を考える —

ACCU奈良事務所は、2006年度から「文化遺産の危機管理」をテーマとした国際会議を開催してきました。今回は、2009年1月28日から30日まで、奈良県新公会堂において、「歴史都市の防災」という問題を取り上げ、議論を交わしました。

最初に、インドのロヒト・ジギヤスさん（立命館大学歴史都市防災研究センター客員教授）が歴史都市防災の世界的な動向を、大和智さん（文化庁文化財部参事官）が日本での取り組みと課題について基調講演をしました。また、文化遺産の保護を推進する国際機関イクロムのジョセフ・キングさんからも、同機関の取り組みについて特別講演がありました。次いで、国内外の専門家の方々が、奈良、都江堰（中国）、カトマンズ（ネパール）、ハノイ（ベトナム）を取り上げ、歴史都市防災の実情と課題について、事例報告をしました。特に都江堰の報告では、昨年5月に発生した四川大地震による被害の実情が詳しく紹介されました。最後の総合討議では、これらの報告を受け、活発な議論が展開しました。



文化遺産国際シンポジウム

古都を守る  
— 災害への備え —

2009年1月31日、奈良県新公会堂で、「古都を守る—災害への備え—」をテーマに文化遺産国際シンポジウムを開催しました。  
元興寺住職の辻村泰善さんの基調講演、インド・中国からの事例報告の後、パネルディスカッションを行いました。

事例報告①

ロヒト・ジギヤスさん（インド）  
立命館大学歴史都市防災研究センター客員教授

文化遺産とは、記念物や建築物といった有形のものだけでなく、人々の生活様式そのものであると言っても差し支えありません。それ故、文化遺産を災害から守るためには、文化財所有者、政府、地元のコミュニティの協働が欠かせないのです。

事例報告②

孔 萍さん（中国）  
ユネスコアジア太平洋地域世界遺産研修・研究所所長補佐

文化遺産の保護について、非常に正確なデータと知識を持っているのは、文化遺産に慣れ親しんでいる地元住民の方々です。包括的な危機管理というものは、住民の皆さんの熱意がなければ実現しません。地元のコミュニティの参加が不可欠です。



パネルディスカッション 左から西村康（ACCU奈良事務所長） 辻村泰善さん  
ロヒト・ジギヤスさん 孔 萍さん

# 元興寺とならまち

〜歴史に学ぶ防災の知恵〜

元興寺住職 辻村 泰善さん

## ■平城遷都と元興寺の移建

「元興寺」は、飛鳥の地に創建されたわが国最初の寺院である「法興寺」が始まりです。奈良に都が移されると、寺名も「法興寺」から「元興寺」に改めました。日本で一番長い歴史がある寺です。しかし、このことをご存じない方が多いのです。何故かという、忘れられてしまう、あるいは、消されていくという文化があるからです。

## ■南都七大寺の一つとしての元興寺

現在、元興寺は奈良町の一角にありますが、天平時代には、今の奈良町二帯を寺域に持つ大寺院でした。

都が京都に移つても、奈良は京都に対して「南都」と呼ばれ、人々の精神的な都として栄えました。平安京に住む貴族たちにとつて、南都七大寺を巡礼することは「心のふるさと」を訪ねることもありました。平安時代の前半頃まで、元興寺は南都七大寺の中でも各方面で指導的な役割を果たしていたようです。

## ■人々に支えられた元興寺

しかし、平安時代も後半になると、官寺の支えであった中央政府の権力が衰え、荘園、寺領からの収入も極端に減つて、衰退の道をたどりました。その一方で、この頃から、元興寺伽藍がえんの一部だった僧坊が念仏道場として使われ、「極楽院」と呼ばれるようになりました。

室町時代には、土二揆などが頻発する混乱の一方で、ダイナミックな町が形成されるようになり、元興寺の旧境内も徐々に町の中に取り込まれていきました。町の人たちと寺との関係が密接

になり、極楽院（元興寺）

は町の人たちの信仰の場として、寺は、町の人たちによつてきちんとな管理がされるようになります。この頃から「奈良町」が形成されるようになったといわれています。

明治時代の廃仏毀釈はいぶつしやくの頃には、寺が小学校の校舎として使われたこともありました。しかしながら、町の人々に支えられ、復興していきます。寺の名前も、「元興寺」を復活させたいという人々に支えられ、「極楽院」から「元興寺」に戻りました。

## ■文化財を守っていくこととする気持ちが大切

元興寺は、このような変遷をたどってきました。私は、元興寺という寺や寺の歴史が非常に好きです。ファンなのです。これが大事なのです。そういう気持ちがないと、ものは残らないし、伝わりません。放つておくと消えてしまいます。



「突然襲いかかる自然災害、日頃からの訓練がないと、迅速な対応はできません」元興寺の防災対策について説明する辻村住職。

文化財は、守っていくこととする気持ちがないと守れません。歴史をひも解いて、こんなに素敵なところだから、どうすれば残していけるのかというような学習が小さい頃からなされないと、なかなか文化財を守っていくことはできないとつくづく感じます。



元興寺住職 辻村泰善さん

## 集団研修

9/9

10/9

アジア太平洋地域から15カ国16名の研修生を招き、「考古遺跡の調査と保存」をテーマに研修を実施しました。



集団研修 開講式

16名の研修生は、それぞれ文化省、大学、研究所などに勤務し、文化遺産保存・修復に携わる考古学の専門家です。研修では、遺跡の保存・修復の講義・実習、さらに、実際に触れる機会としての臨地研修を多く取り入れました。研修生は、研修講師と熱のこもった意見交換を交わすなど、研修の成果を自国で活かそうと意欲的に取り組みました。



九州国立博物館にて臨地研修

### 研修生からのメッセージ

ブン・ペアックダイさん(カンボジア)

上智大学アジア人材養成研究センター  
考古学専門職員

日本では、遺跡の横に必ずといってよいほど資料館があり、見学者が理解しやすいように配慮されているのが大変参考になりました。

アイリーン・ババカニさん(イラン)

文化遺産・工芸・観光協会 保存修復主任

文化や言葉が違う国々の研修生と意見交換することで、たくさん重要なことを学ぶことが出来ました。

トウタラ・アソーアさん(サモア)

サモア国立大学 講師

大学で受講した理論重視の教育に比べ、この研修では、多くの実例に触れることができ非常に意義でした。

### カリキュラム(概要版)

#### 講義

「日本における遺跡の保存活用」「遺跡探査法概論」「年代測定法概論」など

#### 実習

「遺跡・遺物の記録方法」「遺跡・遺物の保存科学」など

#### 臨地研修

平城宮跡、石舞台古墳、平等院、姫路城、九州国立博物館、吉野ヶ里遺跡など

#### 報告・討議

研修生の自国の「現状と課題」について、イクロム講師と意見交換  
\*イクロム(文化財保存修復研究国際センター)

### 個人研修・後期 カンボジア

11/18

12/19

カンボジアから、アンコール地域遺跡保護整備局に所属する3名の研修生を招き、個人研修を実施しました。

今回の研修では、遺跡調査が進む同地域での「調査後の整備と活用」に必要な知識・技術の習得をメインテーマとしました。

### 研修生からのメッセージ



チュオン・サムディさん

カンボジアの文化遺産は、「木の文化」の日本と違い「石造建造物」であるため、保存・修復の手法はかなり異なりますが、デジタル技術を取り入れた日本の修復手法や展示方法などを活用していきたいと思っています。



リム・スルーさん

カンボジアには、アンコール遺跡など貴重な文化遺産がたくさんありますが、人的資源に制約が

# 文化遺産保護青年指導者 研修・交流プログラム

11/10

11/20

アジア太平洋地域の10カ国から、文化遺産保護に携わる青年指導者10名を招き、研修・交流プログラムを実施しました。



「一条高校の生徒の皆さん、温かい“おもてなし”ありがとう!!」  
(奈良市立一条高校セミナーハウスにて、研修生と高校生の交流)

日本の拠出により設置された「ユネスコ青年交流信託基金」を活用し実施するこの研修では、日本の文化遺産保護に関する理解を促進するとともに、大学生や高校生との国際交流により、若い世代のネットワークづくりを支援しました。研修生との交流に参加いただいた一条高校の生徒の皆さんからは、「他の国の文化・生活を知り、笑いを合せて、本当に楽しい一日でした」などの感想が寄せられました。



平城宮跡の文化遺産について説明を受ける研修生

## 研修生からのメッセージ

ファミ・プリハントロさん(インドネシア)

ガジャマタ大学考古学 講師

日本での研修を活かし、文化遺産保護の専門家と若い世代との交流により文化遺産保護の重要性を学習するプログラムを提案していきたいと考えています。

マリィ・アントワネット・レイエさん  
(フィリピン)

ユネスコ国内委員会 文化教育部 開発管理員

橿原市今井町の歴史的町並み保存の取り組みが非常に参考になりました。私の国のビガン歴史地区(世界遺産)などの保存・活用への参考になりたいと考えています。

ウイラヤ・チャムナンポールさん(タイ)

文化省芸術部 情報技術員

高校生・大学生との交流、また研修生同士の交流で、アジア太平洋地域の文化遺産を協力して保護しようという気持ちが生まれました。

## カリキュラム(概要版)

講義 「有形・無形の文化遺産保護」

臨地研修

(奈良県)

民俗博物館、橿原考古学研究所附属博物館、法隆寺、橿原市今井町、明日香村など(京都府)

金閣寺、二条城

交流

◆奈良大学での講義及び学生との意見交換  
◆奈良市立一条高校の生徒と平城宮跡で交流  
◆京都ノートルダム女子大学の学生との意見交換及び金閣寺・二条城での交流

## カリキュラム(概要版)

講義 「遺跡博物館の実務と運営」各種遺跡の整備と活用」など

実習

「発掘調査現場実習」

臨地研修

(奈良県)馬見丘陵公園、橿原考古学研究所附属博物館など(大阪府)近つ飛鳥博物館、吹田市立博物館など(沖縄県)今帰仁城跡、座喜味城跡、首里城跡など



平城宮跡にて発掘調査現場実習



イン・ソヴァンさん

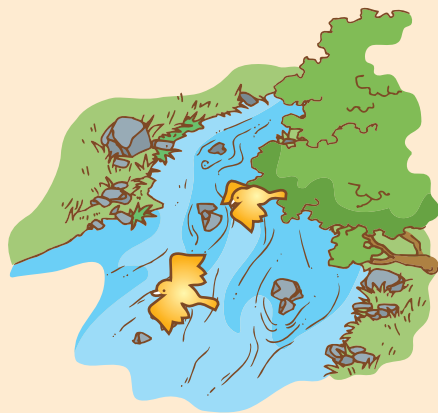
あり、十分な管理活動ができていません。今回の研修で学んだ技術・手法を私の職務において活用していきたいと思っています。

臨地研修では、考古学、建築学、造園学などの専門家の方々に、多くのことを教えていただきました。研修で培った知識を同僚に伝授し、文化遺産保存・修復の改善を図っていききたいと思っています。

# WALKING MAP

ACCU奈良事務所周辺の見どころ

## 桜だより 佐保川



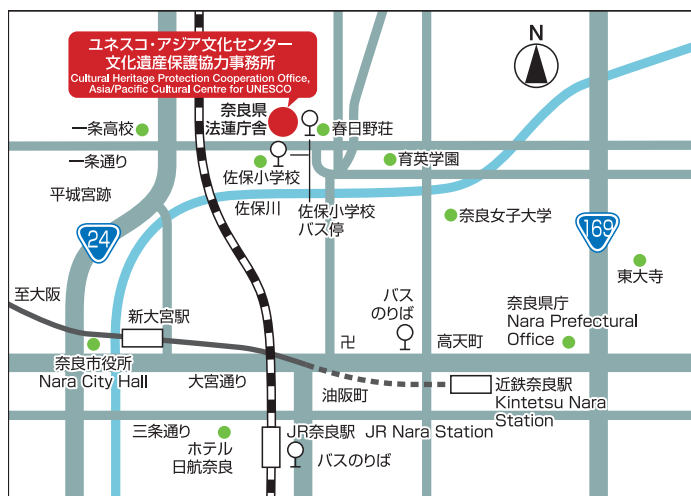
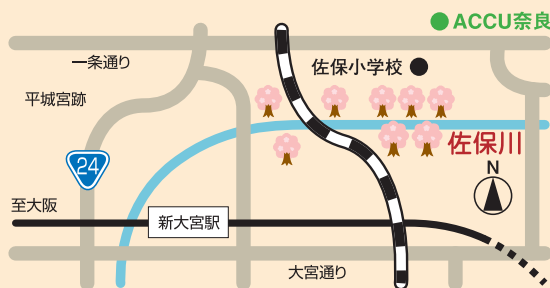
参考文献  
『万葉集(二)』中西道  
(講談社文庫)

作者未詳

万葉集 卷七・一・二三  
佐保川の 清き川原に 鳴く千鳥  
蛙と二つ 忘れかねつも



万葉集に、大変きれいな川と詠まれている佐保川。春になると、川沿いに咲く1000本の桜並木が道行く人々を魅了します。この桜は、江戸時代末期、奈良の名所復興に尽力した奈良奉行の川路聖謨が、植樹させたのがはじまりとされています。なかには、樹齢150年といわれる見事な古桜もあります。華麗な桜並木は、今年も優しく微笑んでくれます。



### 財団法人 ユネスコ・アジア文化センター 文化遺産保護協力事務所

Cultural Heritage Protection Cooperation Office, Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO

〒630-8113 奈良市法蓮町757(奈良県法蓮庁舎1階)  
TEL 0742-20-5001  
FAX 0742-20-5701  
URL <http://www.nara.accu.or.jp>  
E-mail [nara@accu.or.jp](mailto:nara@accu.or.jp)

#### 交通アクセス

- 近鉄奈良駅から
  - \*徒歩約20分
  - \*バス13番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ
- JR奈良駅から
  - \*徒歩約25分
  - \*バス7番のりばから「西大寺駅行き」または「航空自衛隊行き」で、佐保小学校下車すぐ